

## 「保育人材の確保について」

### 問1. 神戸

本県の待機児童は、本年4月1日現在で174人発生しており、未だ解消には至っておりません。待機児童の解消に向けて、保育所等の受け皿が整備されているところですが、施設の整備に伴い、更なる保育士の確保が必須の課題になると考えます。そこでお伺いします。

昨年3月に策定された「あいちめぐみんプラン2020-2024」では、2024年度末までに常勤換算で30,000人の保育士を確保することとされておりますが、現在、県内の保育士は何人いるのか伺います。

### 答1. 子育て支援課答弁

本年4月1日時点の保育士数は、常勤換算で29,008人となっており、昨年度から418人増加しております。

### 問2. 神戸

保育士の数が増えているとのことですが、保育士として就職した後、継続して働いていただくことが重要と考えます。厚生労働省の調査によりますと、2020年度の保育士の平均勤続年数は、7.6年であり、全職種12.0年に比べて短くなっております。

昨年、厚生労働省が開催した「保育の現場・職業の魅力向上検討会」の資料によりますと、保育士の退職理由として、「仕事量が多い」が上位に挙がっております。

そこで、県として、保育士の離職を防ぐため、労働環境の改善にどのように取り組んでおられるのか伺います。

### 答2. 子育て支援課答弁

本県では、保育士の業務負担を軽減するため、保育に関する40時間以上の実習を受けた方など、保育士と共に直接保育に携わる「保育補助者」や、給食の配膳や寝具の用意、片付け、園外活動の見守りなど周辺業務を行う「保育支援者」の雇用に対する助成を行い、保育士の労働環境の改善に取り組む事業者の支援を行っております。

今年度、「保育補助者」については、22市町141施設、「保育支援者」については、26市町村377施設に対して、補助を行う予定です。

### 問3. 神戸

保育士の定着に向けて、より一層の労働環境の改善に取り組むことを期待しておりますが、保育士資格を持ちながら保育士として勤務していない、いわゆる「潜在保育士」の方に保育の現場で活躍していただくことも重要だと考えます。そこで、潜在保育士の掘り起こしや、保育士として就労していただくために、どのような取組を行っているのか伺います。

### 答3. 子育て支援課答弁

本県では、潜在保育士の就職を支援するため、保育士・保育所支援センターを設置し、専任のコーディネーターによる求人・求職のマッチングを行うとともに、就職支援フェアや再就職に向けた研修会、ハローワークと連携した就職相談会等を開催しております。

また、同センターでは、2019年度から、保育士登録者約9万人のうち、毎年1万5千人を抽出し、就労状況等の調査を行い、「今後、保育士として働く希望がある」と回答をいただいた潜在保育士の方に、就職相談会等の情報提供を行っています。こうした取組により、昨年度は101人、今年度は10月末までに79人の方を保育所等への就職につなげております。

### 問4. 神戸

潜在保育士の就職支援に取り組んでいるとのことですが、保育士を増やすためには高校生や大学生など、これから進路選択をする若い世代に、保育士になっていただくような働きかけが必要と考えます。そこで、県としてどのような取組を行っているのか伺います。

### 答4. 子育て支援課答弁

本県では、今年度新たな取組として、保育関係団体と協力し、4月と11月に中日新聞社等が主催する「進学フェア」や「保育のお仕事就職フェスティバル」において、高校生や大学生などを対象に、保育士の魅力ややりがいを伝えるセミナー等を実施し、約60人の方にご参加いただきました。

また、保育士を目指す学生に対し、入学準備金として20万円、入学後の学費として月額5万円を貸し付ける「保育士修学資金貸付事業」を行っており、今年度は、新たに65人に対し貸付を行っております。この貸付金は、卒業後1年以内に保育士登録を行い、県内の保育所等で5年間

就業を継続した場合には返還が免除され、保育士の確保と定着を促すものであります。

今後とも、保育関係団体等と連携し、保育人材の確保に取り組んでまいります。

## 要望、神戸

最後に要望いたします。県では、保育士の確保のために様々な取組がされていることが分かりましたが、先程の厚生労働省の資料によりますと、保育士の退職理由として、「仕事量が多い」のほか「給料が安い」が上位に挙がっております。

政府は、先月 19 日に閣議決定した新たな経済対策において、他業種に比べ処遇改善が遅れている保育士や介護士、看護師らの収入を、3%程度引き上げる方針を打ち出しました。今後は「公的価格評価検討委員会」で具体的な議論がされていくとのことであり、県としてもこれらの取組に歩調を合わせ、さらなる処遇改善に努めていただけることを期待しています。

実は私事ですが、この 8 月に私も資格専門学校に申し込み、保育士資格を取得するために勉強しました。通信で試験を受け、2 日間スクーリングにも参加し、人形でしたが、久しぶりにおしめの交換、沐浴、ミルクを作るなどの実習を行いました。14 名の皆さんと一緒にでしたが、メンバーは主婦や介護職、幼稚園を退職した方など様々でした。人材不足を少しでも補うため、退職された皆様も資格を取って復帰しようと努力されていますが、やはり若い方々にも保育士を志していただきたいと思えます。

昨年からの新型コロナウイルス感染症の影響などにより、保育士資格を目指す学生が学ぶ環境は厳しいものとなっております。子どもを育む職場で働きたいという若い世代の夢を叶える機会が奪われることのないよう、修学資金の貸付など、引き続き、しっかりと支援に取り組んでいただくよう要望し、わたくしの質問を終わります。